

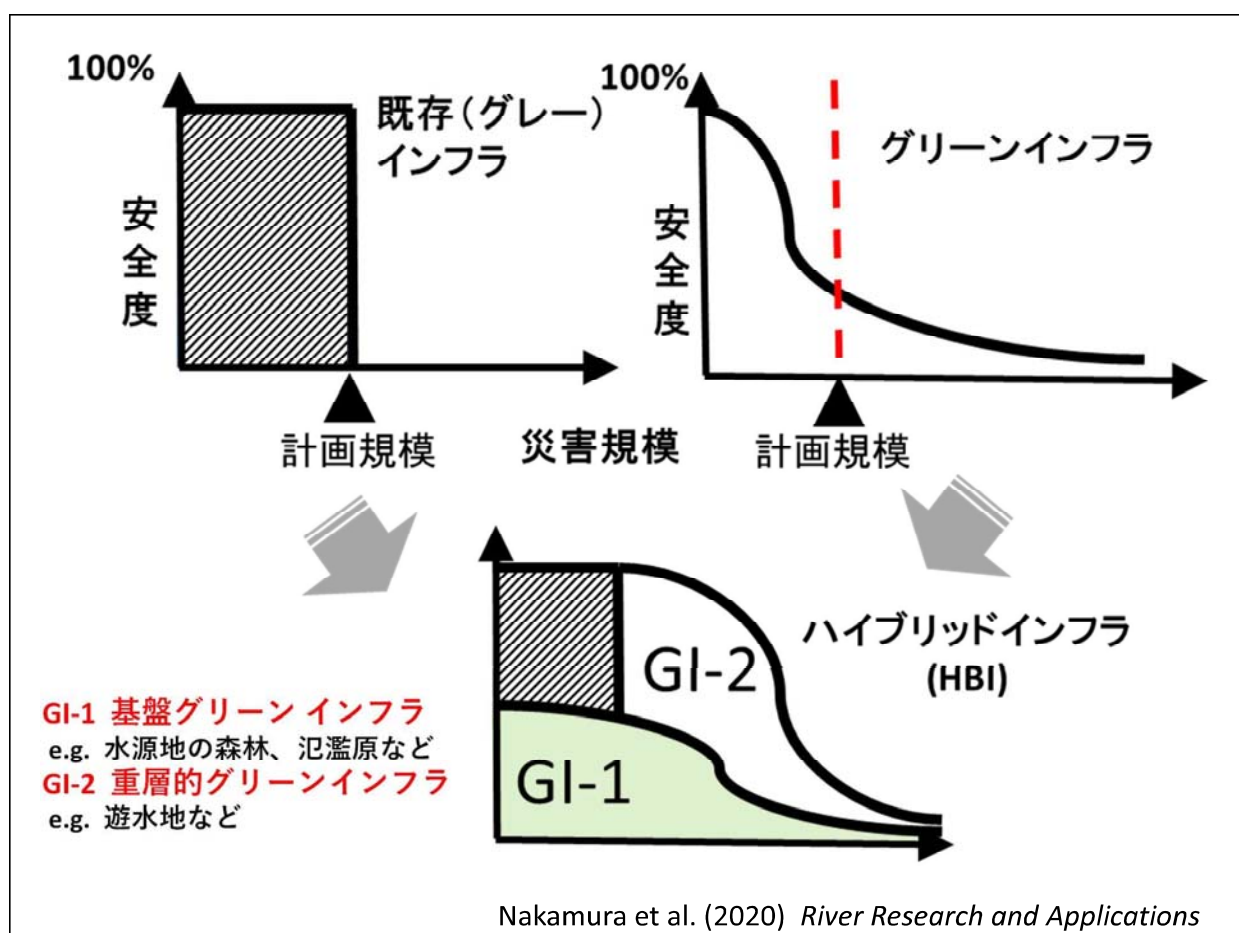
河川環境の保全と洪水災害、そして感染症の先に見えるもの

第28回リバーフロント研究所研究発表会

2020.11.11
北海道大学 中村太士

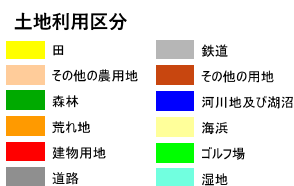
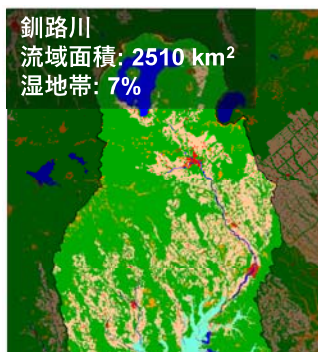
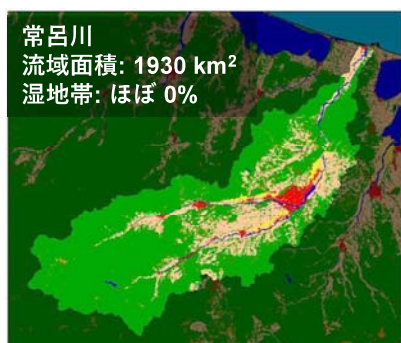


タンチョウも住めるまちづくり検討協議会提供

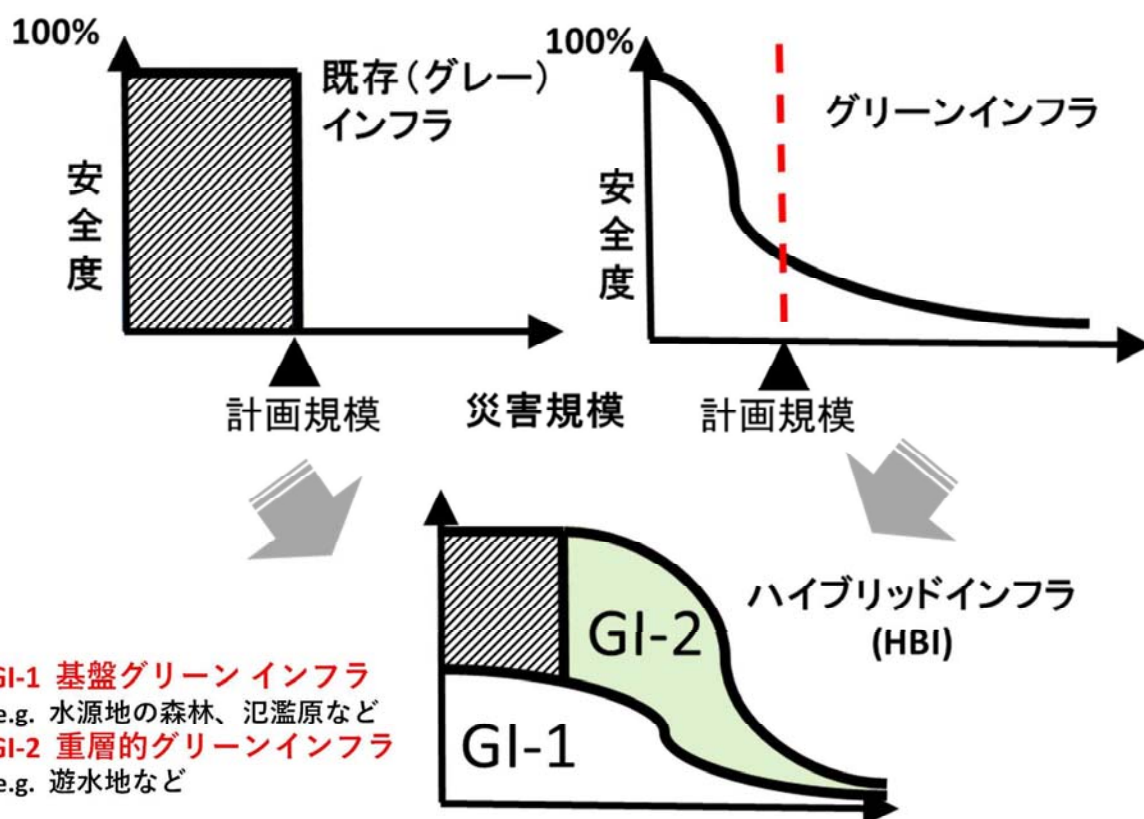


釧路湿原の防災力

Nakamura et al. (2020)
River Research and Applications



5

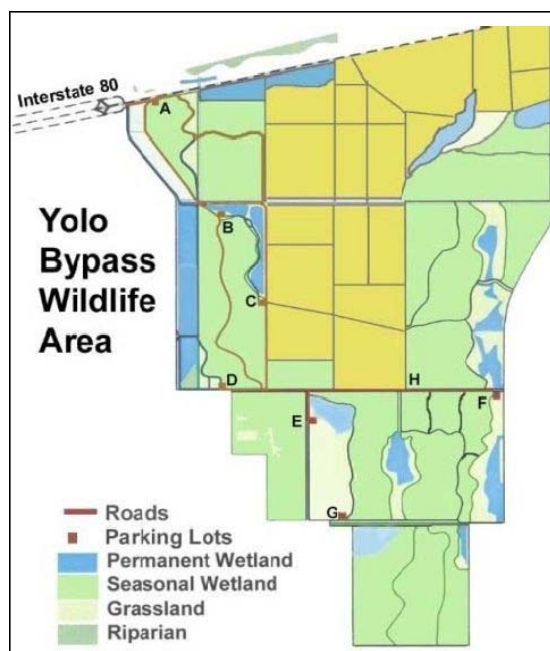
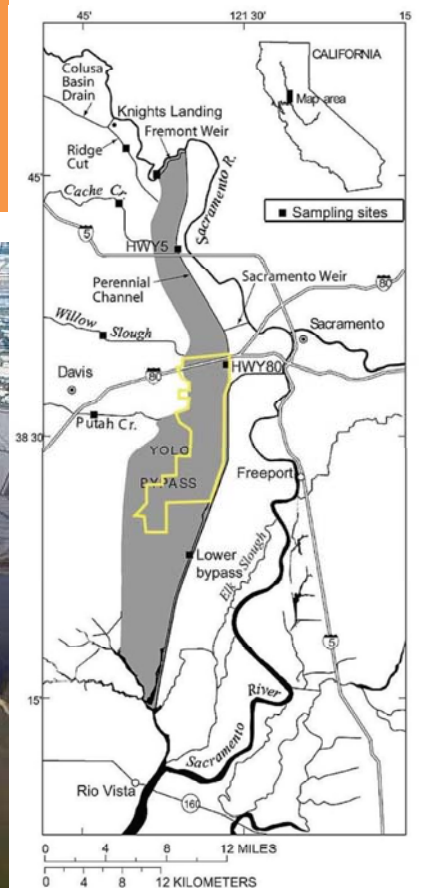


Nakamura et al. (2020) River Research and Applications

農村景観のGI

Yolo Bypass Wildlife Area

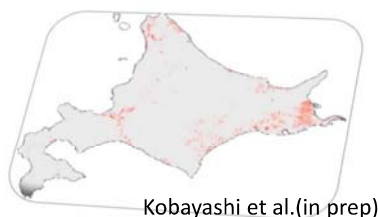
Yolo County, CA, USA



GI導入候補地の検討

Nakamura et al. (2020)
River Research and Applications

放棄地分布 (保全コスト)

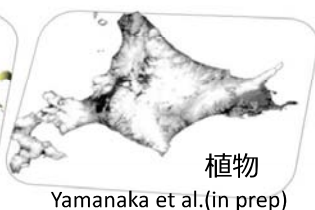
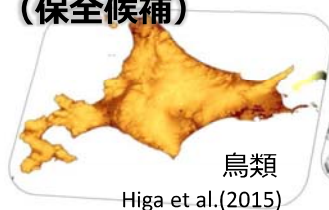


Step3

放棄農地の多い場所程
保全コストが抑えられると仮定.

0% : 候補順位 (低)
- 5% : 候補順位 (中)
>5% : 候補順位 (高)

生物多様性 (保全候補)



Step2

推定種数に基づき
各分類群ごとに3次メッシュを
10段階でスコアリング.

合計が**上位1/4**を
保全候補地として選定

ハザード リスク

洪水リスク
■ 浸水 2m未満
■ 浸水 2m以上



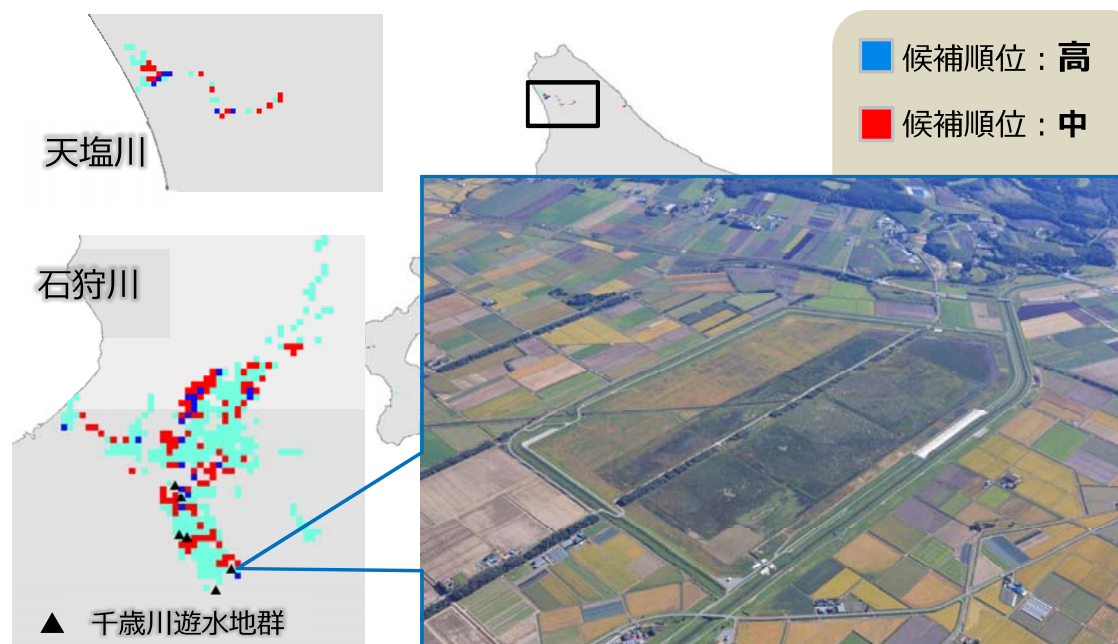
Step1

対象外 : 浸水 2m未満
対象 : 浸水 2m以上

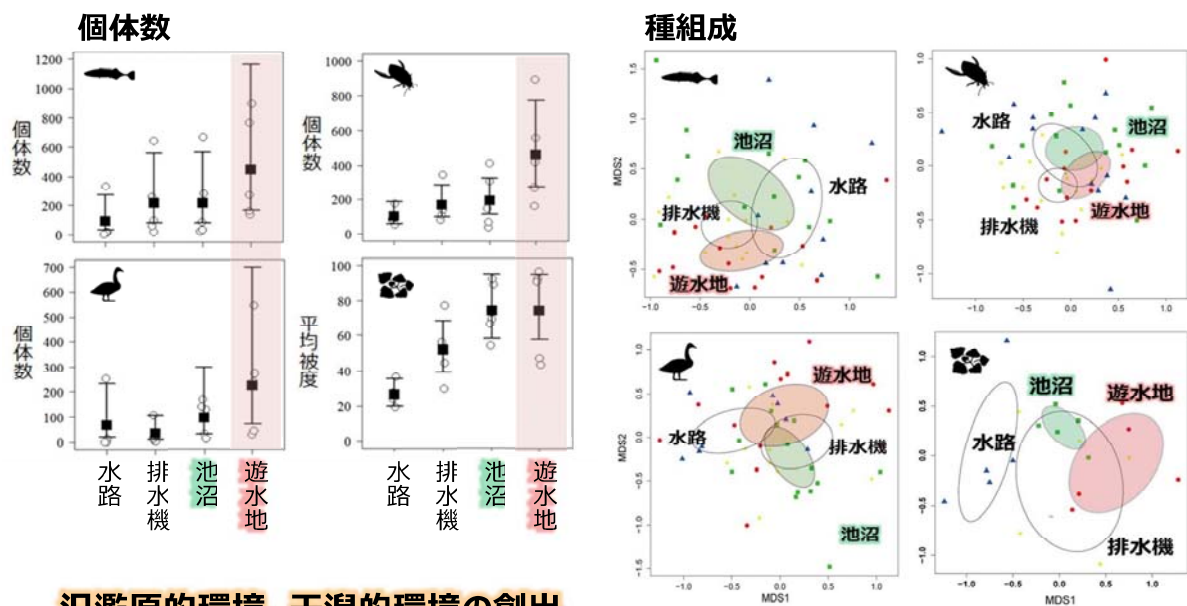
解析結果

Nakamura et al. (2020) 10
River Research and Applications

- ・ “大河川の下流域” にGI導入候補地が多く抽出された.
- ・ 特に石狩川下流域は、周辺人口も高く効果が期待.



遊水地の生物多様性保全機能： 既存水域との比較



氾濫原的環境、干潟的環境の創出

→多様な生物相の再生に寄与

Yamanaka et al. (2020)
Ecological Engineering



グリーンインフラは環境と地域経済を豊かにする

北海道新聞
2019年(平成31年)3月13日(水曜日)

地域経済

タンチョウ 空知で
1952年以降 道が初確認

【釧路】道は12日、本年
度第2回タンチョウ越冬
分布調査の結果を発表し
た。調査開始の1952年
以降では初めて空知管内長
沼でも成鳥1羽の越冬が
確認された。調査に協力す
る事務所長大の正志宏之
助教授は「おそろく道内
での越冬は1900年以降
で初めて」と話している。
調査は毎年度2回。本年
度の2回目は1月25日午後
3時に釧路、十勝、根室、
オホーツク、空知、日高、
胆振、空知の8管内31市町
村で行い、空知のほか釧路、
十勝、根室、日高の5管内
14市町村で993羽の野生
個体を確認した。
管内別では釧路管内が8
8羽で全体の92・3%を
占めたが、国・道の5大給
餌場で確認された割合は47
・2%で過去最多。直近5
年間と比べ、農家数増や
河川、湿地での自撃も増加
し、給餌場からの分散化の
傾向が見られ、正志名譽
教授は「冬季分布の道央へ
の拡大が明確になった」と
コメントした。(高橋 佑)



